

# NEW DENTAL SALON

## お知らせ

下都賀歯科医師会臨時総会  
(議事録より抜粋報告)

## トピック

### 歯科医師会と私

小暮 英夫 先生

### 業者からの耳より情報

(株) ハギノヤ

### これからよろしく

(若手自己紹介)

島崎 太吾 先生

峰野 友良 先生

### 連載紀行 気が付けば乗り物嫌いが旅の虜に

関根 潔 先生

### 会員投稿

### 連載 下都賀歯科医師会側面史

落合雅雄 先生

## 編集後記

冒頭に総会の報告を載せました。堅い内容になってしまいましたがお容赦を

広報担当理事 前橋 潮

## ネット配信広報誌 第4号 2018年 春

### 下都賀歯科医師会臨時総会

(総会議事録より抜粋)

平成30年3月28日午後7時45分から、下都賀郡市医師会研修室(栃木県栃木市境町27番21号)において臨時社員総会が実施された。

議決権のある当会社員総数	103名
総社員の議決権の数	103個
出席社員数	34名
書面表決書による社員数	63名
この議決権の総数	97個
出席理事	白井正人 町田裕哉 山井健嗣 清野栄治 本島博久 前橋 潮 田村良亮 小林克則 鈴木常夫 君島充宣

出席監事 西澤 聡 新井和幸  
議事録作成理事 白井正人

決議された内容の概略を以下に示す。

議案第1号 平成30年度役員報酬額案の承認を求める件

平成29年11月29日開催役員報酬算定審議会において、平成29年度役員報酬額

## 会長の年間スケジュール

他支部ならびに栃木県歯科医師会役員報酬以上三項目を参考に協議の結果

平成30年度の三役の役員報酬の増額を役員会に提案したが、会計上余裕がなく見送りとなったと報告をうけ賛否を議場に諮ったところ全会一致で、役員報酬は据え置きとして承認可決された。

## 議案第2号 平成30年度事業計画案の承認を求める件について

早乙女雅彦会員から「労務管理等の講習会開催の要望はでていないか」との質問があり臼井会長から今のところ要望は出ていない。各歯科医院で規約を作成していることと思います。問題が生じた際に対応が難しくなってくることも考えられ、会員より要望があれば開催したい。との説明があり早乙女雅彦会員の了承が得られた。

次いで、島田博史会員から3月22, 23日に開催された「保険講習会」に出席したが、行政目線で解り難い。社保講習会を早めに開催して頂くことはできないかとの質問があり臼井会長より栃木県歯科医師会の事業のため、下都賀の都合で決定することはできないが、できるだけ早めに開催できるよう要望したい。との回答があった。さらにもう一つ下都賀で毎年12月に開催している「保険講習会」について日程の再考をお願いしたい。との質問に「先生方のご都合、又年末という事もあり日程を組むことが難しい。平日の夜を希望される方が若干多いため、水曜日開催となっている。ご理解いただきたい」との回答があった。もう一つ「去年は都合がつかず欠席したが、当日の配布資料を希望したところ出席者のみの配布との返答があった。いただくことはできないか」との質問に対して田村保険担当理事からの回答は「口頭での説明で資料等の配布はしないように指示があったため申し訳ないが欠席の先生にお渡しすることはできない」との回答があり島田博史会員の了承を得られた。

## 議案第3号 平成30年度予算案の承認を求める件について

「定期預金より繰入」及び「管理費 給料手当の増額」について

現事務員が勤続19年となり、次期事務員を募集しなくてはならない。仮に次期事務員を雇用した場合、引継ぎ等で二人の事務員を雇用することとなり通常の予算内では二人分の給料を賄う事が難しいので、定期預金よ

り繰り入れて一人分の給料に充てたいと考えている。との説明があり議案第3号は承認可決された。

次に新入の松本一真先生（平成29年10月30日）会員紹介が自己紹介で行われた。

その他の項目で四つの事前質問があり、その回答が行なわれた。

質問1 特別養護老人ホーム等高齢者施設、障害者支援施設等の協力歯科医の報酬について（早乙女雅彦会員）

【臼井会長より回答】公立も含め、県下でも分かれるところがある。

3月22日の栃木県歯科医師会代議員会に於いて質問をしたが栃木県歯科医師会でも明確な基準がないとのことで、4月19日に開催される郡市会長会議までに調査していただくようお願いした。

質問2 医療安全管理指針、マニュアルの改訂と針刺し事故の事後処理に関する高次医療機関との連携に関して（早乙女雅彦会員）

【臼井会長より回答】現段階では協議していないが、今後早い段階で協議していきたい。以上の質問につき、会長の説明で早乙女雅彦会員の理解を得られた。

質問3 乳幼児（2歳児）健診の時間帯について（寺内達成会員）

現在は午前を実施されているが、午後に変更してもらえないか。との質問に

【町田副会長より回答】この件につき行政に確認しました。

午前の実施は歯科医師会の要望と行政の希望が一致したことによる。又、保護者からの希望もあったと聞いている。

質問4 乳幼児健診の担当割当基準について（寺内達成会員）

【町田副会長より回答】各地区の役員により、若い先生を中心に前年と重ならない様決めている。各先生方には、年間2回程度ご担当いただく事となっている。以上の質問につき、副会長の説明で寺内達成会員の理解を得られた。

以上をもって本臨時総会における報告及び全議案の審議を終了したので、山井健嗣副会長は午後9時02分閉会を宣した。

# 歯科医師会と私

小暮英夫

入会当時(昭和50年)の事業の中で後に大きく変更になったものを思い出しながら記してみたいと思います。

## 歯と口の健康週間行事について

6月4日を虫歯予防デーと称したように虫歯予防が中心でした。6月の水曜日の午後に旧栃木市役所に隣接した栃木市中央公民館を会場に行われました。内容は作文、ポスター等の表彰式と検診でした。教員が児童生徒を引率して参加していました。

検診の対象者は受賞者と近隣の小学校の対象となった学年の児童だったと思います。検診だけでフッ素塗布はありませんでした。

終了後には懇親会がありました。その後、社会や教育環境の変化、その他諸事情から現在のような形式になっています。

## 個別指導について

支部で会場設営をしていましたので指導日の対象医療機関は下都賀地区の医院だけでした。



自分の経験では同日に非会員の対象者がいた記憶はありません。当時の開業医はほぼ全てが入会していたとおもわれます。

支部から電話で指導対象になったと連絡がありましたが理由は不明との事でした。

持参物は全ての診療録でした。事前に保険担当役員により相談会のようなものがありました。指導は厚生省の歯科技官と栃木県職員である事務方とで実施されました。立会い者は県歯会長、県歯保険担当理事、支部長、他でした。

指導内容は、あまり覚えていませ

んが診療録を詳細に視て指導をされた記憶はありません。事前も事後も文書連絡が届いた記憶もありません。

技官が栃木県勤務でなかったのが、栃木に前泊し終了後に懇親会もあったようですので当時の役員は対応に大変御苦労されたようです。

個別指導についても日本が経済成長中の時代だった事もあり国や歯科業界も大らかだったようです。

その後、度が過ぎる官民癒着が問題となり現在の姿となっています。

# 業者からの耳より情報

(株) ハギノヤ 飯島 浩史

ハギノヤからは2回目の情報となります。

前は「ものづくり補助金」のお話をさせて頂いたかと思います。



今回は「IT補助金」についてお話しさせていただきます。

また補助金のお話しとなりますが、暫しお付き合い頂ければと存じます。

そもそもIT補助金となんぞや？というところからですが、『IT導入補助金とは、正式には「サービス等生産性向上IT導入支援事業」といいます。この補助金は、IT導入支援事業者が登録するITツール(ソフトウェア、サービス等)を同事業者の提案を受けて、

導入しようとする事業者(補助事業者)に対して、事業費等の経費の一部を補助することにより、経営力向上を目的とした補助事業です。

この補助金でのIT導入支援事業者とは、補助事業者に対してITツールの説明・導入・運用方法の相談などのサポートを実施する事業者のことを言い、補助金の交付申請や実績報告などの手続きを補助事業者に代わって行う「代理申請」がIT導入補助金の特徴の一つでもあります.....。

医院様にて対象になる設備としては、レセコンがこちらの補助金の対象になります。

補助金上限 2018年度:50万円  
補助率 2018年度:投資額の2分の1今年度は4/21日よりスタートとなります。

2017年度もこちらの制度を利用してレセコンを入れ替えて頂いた医院様も何件かございました。2017年度と比べますと補助金の

上限額は下がってしまっていますが、前回の予算から5倍増の500億円計上となり、「ものづくり補助金」と比較しても審査の通りやすい補助金制度となっております。

レセコンのリプレースの時期となる先生、もしくはリプレースの時期が一年を切ってらっしゃる先生、弊社営業マンまでお気軽にお問い合わせ下さい。

詳しいお問い合わせ先

株式会社 ハギノヤ

☎ 0282-22-1466



# これからよろしく

峰野 友良

## Being 40 years old

こんにちは。みねのデンタルクリニックの峰野友良です。お陰様で開業して8年が経ちました。

栃木市に生まれ高校まで地元で過ごしました。特に習い事や塾などは行かず、小学校は陸上部、中高はバドミントン部に所属しいつも汗を流していました。

北海道にいた大学時代には、硬式庭球部に在籍していました。軟派なイメージで入部したらこれが思いっきり硬派な体育系で酸いも甘いもいろいろ経験させてもらった記憶があります。また、北海道は自然の宝庫で本州では体験できない環境での生活が本当に楽しかったなと今でも思い返す時があります。

卒後は、北海道大学病院で研修しその間開業医でバイトしながら3年後、栃木に戻ってきました。そして、開業医として大尊敬できる先生の元で勉強させていただいたのち、平成22年に栃木市大宮町に開業しました。

休みの日はドライブがてらのお出かけが多いのですが、長期休暇は



スキューバダイビングに行くのが楽しみです。海なし県に育ったせいか、また雪国生活が長かったせいか、暖かい海への憧れが強いようで5年間で150本くらい潜ってきました。南国の透明なブルーの





海の中に身を沈め無重力の浮遊感を感じながら泳ぐ、目の前を多彩な魚達が横切り、愛嬌のある不思議な生物達と出会う、日ごろの雑音は、海の中にはありません。潜った人しか見るこのできない壮大な感動的なドラマがあり、人生観を変えてしまうほどの心地良い空間があります。すべての生物が海から誕生したということが妙に納得させられる気がします。

そして、昨年、40歳を迎えて、9月に息子が誕生しました。心待ちにしていたことですが日々の生活が子供中心へとガラリと変わりました。しかし、毎日ギャンギャン大泣きしている息子を抱きしめている自分が奇跡の様でそんな現実をかみしめています。そして、私を親にさせてくれたことに感謝しています。これからは息子の成長に責任を感じながら育メンをめざして。しばらくは、ダイビングも自粛です。

# これからよろしく

島崎 太吾

歯科医になり勤務医として就職してから7年。さらに開業してから7年目を迎えようとしています。日々忙しくしていると月日が経つのが早く、気づけばもう40歳を迎えてしまった。地域医療に貢献するために歯科医として自分に出来る事を継続していこうと思う。

休日は週に1度の日曜日。唯一のオフの日には身体の疲れを取り、翌日から新たに始まる1週間を乗り切るための鋭気を養うという事でゴロゴロしながらDVDの映画鑑賞をしたい…というのは儚い夢で、妻の顔色を伺いながら家族



サービスで子供連を遊ばせるのに身体をさらに酷使。疲れが取れぬまままた仕事が始まる。慢性疲労です。

そんな中8歳の長男がスキーデビューをした。まったくの初めてなのでスキースクールへ送り込み指導を受けさせた。長男は勉強が出来ないところはよく似てしまったが身体を動かすのは好きな方で、スキースクールを受けたその日の終わりには、私の後をある程度スピードを出しても着いて来れる位までに上達した。もともとウィンタースポーツが嫌いでスキーも下手な私だったからついて来れたのかもしれないが…

子供に色々な経験をさせるため、これからも頑張って父親としての務めを果たしていきたいと思えます。

# 連載 紀行

## 気が付けば乗り物嫌いが旅の虜に

関根 潔

2014年の正月は関根家全員7名で（自分は4度目の）沖縄で過ごそうと、4泊5日の滞在を。

日中は暑いくらいでタクシーにクーラーがかかっている、街を歩く人達はTシャツ姿なので驚いた、さすがは沖縄。

2日目は国内最大の美ら海（ちゅらうみ）水族館へ。ジンベイザメの大きさにも驚いたが、特に磯の生き物、蟹やヒトデ、ナマコなどの直に触れるコーナーやイルカのショーが孫達に人気だった。



後は倅達の家族と別行動になり、我々は観光タクシーを雇い、今帰

仁城（なきじんじょう）遺跡や識名園（しきなえん）の世界遺産な



どを見て回った。

翌年の正月は沖縄でなく、なぜか住所は鹿児島県の最南端の与論島へも行ってみた。我々夫婦と娘、そして家内の妹夫婦の5名のメン

バーだった。昭和40年代に離島ブームがあり、都会から若者がドットここの海に魅せられて大勢やって来て有名になり、特に大金久海岸の沖に干潮時に現れる（百合ヶ浜）で、出現したては足跡も無い無垢の海岸で、



幅数十m、長さは数百mにも満たないという小島が出来、四方八方が海に囲まれ幻想的だった。貝殻と星の砂がロマンチックなのだ。米国からのひとり旅だという女性と親しくなり、お互いに写真を撮り合った。そして5度目の沖縄も娘以外の家族6名で真夏の8月13日から久米島へ3泊4日の滞在を。

初日はホテルに着いたのが夕方だったがホテルのプライベートビーチがとても美しく、タイドプール（引潮時に出来る少し深い水溜り）に海の小動物が沢山取り残されていて、皆大喜びだった。

2日目はレンタカー2台で名所旧跡めぐりをした後、地名が（熱帯魚の家）という磯浜に行き、岩だらけで靴を履いてさえ歩くと痛く足場はと

ても悪いが、深いタイドプールだ



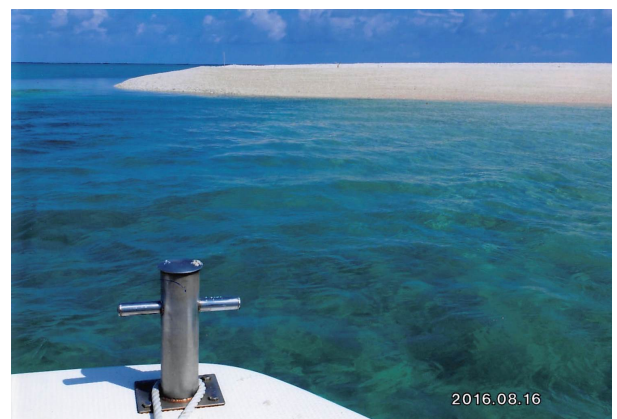
らけで初めて見る熱帯魚のオンパレードで、シュノーケリングが楽しかった。

帰りはマンゴー園に寄り、自宅や



知人宅へ宅配で届けてもらう事にした。

3日目は今回の一番の目的の船底がガラス張りのグラスボートで25



分、昨年の与論島の百合ヶ浜同様、海のと真ん中に干潮時に出現する（果ての浜）へ。

百合ヶ浜の数十倍の規模で、周りが遠浅で岩場もあり、シュノーケリングに最適だった。あまりの楽しさに翌日も同じツアーに参加したくらいだ。

滞在時間が90分と短いので二度目は貝殻拾いや美しい景色の写真を撮



撮りまくった。夕食はタクシーで郷土料理レストランへ行き、普段は食べられないめずらしいサメの料理やシークワサーとビールをミックスしたカクテルがとても旨かった。ホテルに戻る前に、倅と孫の3人だけでカラオケ居酒屋を2軒もハシゴをした。何も久米島まで来てハシゴでカラオケやらなくても…と思うでしょ！？ハハハハ。

## 私の歯科履歴書 落合雅雄

### インプラント

昭和34年(1959)頃わが国におけるインプラントのパイオニアが2人いた。

山口県の開業医山根稔夫先生は、猿に骨内インプラントを埋入した動物実験を報告し話題になった。一方東歯大補綴の懸田利孝先生(後に岩手医大教授)は骨膜下インプラントに取り組んでおり、時々口外から手術の助っ人として動員されたが、予後については確認しなかった。この両先生は、インプラント黎明期のリーダーとして、今日の発展の基礎を造られた功労者である。

インプラントは、臨床家達によって臨床例は、累積されていったが、基礎的研究はほとんど無く、インプラントを製造提供する企業体のコマーシャルベースで、そこへ一儲けを企む西洋の自称エキスパートの輩が相乗りして、怪し気な病理組織像で何と無く納得させられたお人好しの先生方が競い合って試みた。その頃、組織培養が簡単に



できるようになって、大阪歯大理工の川原春幸教授は、インプラント材料(HAやTi)の人体組織への適応(なじみ)について研究され、インプラント基礎研究の嚆矢とされた。

臼歯部の有床義歯の多くは、実際患者に装着しても使われることなく、引き出しに入れられてしまうので、可撤式ではなく固定式義歯として、人工歯根に支えられるインプラントが出現した。

栃木県歯学会の展示でブレードを知り、京橋の乙部朱門先生にマンツーマンで指導され昭和48年

(1973)6月に乙部診療所で、私の患者の下顎臼歯部に乙部先生を助手にして、ブレードインプラントを初めて挿入した。7年後の昭和55年には妻の下顎臼歯部にブレードを挿入、今日まで上部構造は2度交換したが 35年経って何等支障なく使用されている。

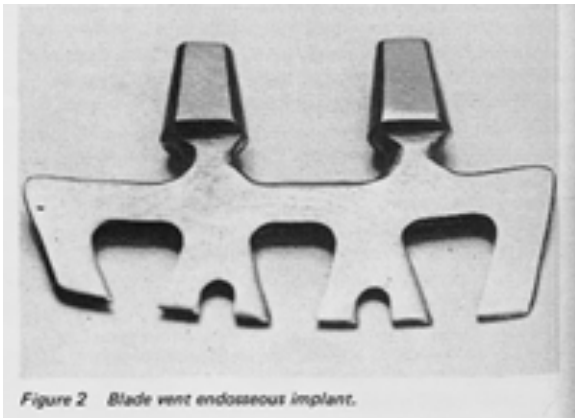


Figure 2 Blade vent endosseous implant.

平成になってオッセオインテグレーション理論と共に、ブレードに代わって ルートフォームタイプが登場し、たちまち雨後の筍の如くルートフォームが乱開発されるようになった。

ブレードの場合は、支持を担う支台歯の骨植が歯周病に罹患していない良好な状態で、かつ咬合も適正な上部構造が用いられていると、長期間に亘って機能し得ることは分かった。

インプラントは実施している歯科医は、開業医が多く、夫々何処かのインプラントのスタディクラブの会員である。北海道から九州までインプラントのスタディクラブ

は存在し夫々が独自に研修に取り組んでいた。昭和40年代の終り頃、歯科インプラント学会が各スタディクラブを結集して誕生した。会員のほとんどは臨床医(開業医)で大学からの参加は少数だった。この事が後々学会が様々な人の欲の巣窟となった。現在は大学人によって運営され正常さを取り戻したようだ。胡散臭いインプラントの普及の形が、次に登場したルートフォームのフィクスチャーも淘汰が相次ぎ、良質なものが生き残ったようだ。私は廉価でシンプルな国産品を使い好結果を得ている。

昭和59年(1984)県内に栃木県歯科インプラント研究会を益子町の大塚義次先生(柳沢定勝先生門下生)らと設立し、多様化したインプラントの研修を目的として県内から多くの参加を得て、10年間活動を続けてきた。その後フィクスチャーの開発も落ち着いたところで研究会も休止状態となった。私のインプラント臨床は、平成3年(1991)頃よりルートフォームタイプフィクスチャーを使用するようになって、平成25年(2013)までプレート時代を入れると 40年間になり、310名の患者に施術した。その間相当数の撤去例もあったが、ブレード撤去時難症例だった一例にオトガイ神経領域5mm角に麻痺が残留した。

痛みに対する閾値は、個体差があるが、誰にも痛くない方がよいと思う。私は口外に在局したとき名手といわれた先生の技を盗むことを心掛ける一方で、診療行為における痛みを如何に軽減するか腐心して来た。麻酔の手技と器具や東洋医学の手法を用いたり限りなく無痛に近づく診療を心掛けた。

大学でインプラントの基礎と臨床の研究が進行するに伴い、その発表の場の学会は、学術団体としての体裁が整ってきたところで、専門医、認定医等の制度が、歯科領域においても各学会で発足が相次いだ。

インプラント学会でも、その潮流に乗ってこの制度の発足を見た。

専門医、認定医等の資格取得には、受験資格条件を充した者が、認定試験に合格して専門医、認定医の資格を取得できる。

発足当初は、受験資格を得るために、他人の実施した症例を借りたり、スタディクラブぐるみでペーパーテストの問題をカンニングしたり、不正が多く見られた。モラルの欠如した不良歯科医師が学会員として相当数存在していると失望し、インプラント学会を退会した。

栃木県歯科インプラント研究会は、企業ペースから離れ、インプラン

ト挿入手技の実習トレーニングによって失敗をできるだけ回避することを目的として、誰でもできるインプラントを目指した。

今日のインプラントの普及には隔世の感がある。